〔第三種郵便物認可〕　昭和六年四月二十八日　磐城新聞　〔火曜日〕　第三千百十三號　〔一〕

夕刊
四月二十七日發行
（日曜祭日翌日休刊）
一部　金五錢
一ケ月　金六拾錢（郵送料金六拾五錢）
廣告料金（一段）一行一回　金九拾錢（五行十二字詰）
（但所指定一行五錢）
編輯印刷兼發行人　遠藤報崎
福島縣石城郡平町田町十番地
磐城新聞社
發行所　郵送料金（第三種）
電話平四四番

電氣町營問題（4）

熱　東　生

第四項　現在會社全体の成績と自町内の成績、之は正確の調査は困難である、又細かいことは必要ない、といふてもよい位だから、大体を調査すればよい、幸い、電氣事業報告様式第八表、第九表、第十表には、各市町村別に各需用種別の數字が載せられてある筈だから、之を見せて貰へばよろしい。

第五項　現在電氣會社の事業傾向とは一寸漠然たる言葉の様だが、之は成べく多方面に目を配つて、要點丈は頭に入れて置き度いのである。即ち(イ)擴張時代か保守時代か(ロ)充實時期か整理時期か(ハ)近く電源轉換の必要なきか(ニ)需要の轉換傾向は(ホ)目前に迫れる大改修其他急施設を要する事項なきか(ヘ)電氣事故發生の傾向は(ト)資金轉換の傾向如何（社債借入金等の趨勢）(チ)附近同業者との關係等、等。

先ず之等一項より五項までの事に對して、調査すれば、準備調査としてはよいと思ふ。

此處に一言附記して置き度いことは、前にもいつた通り、電氣の需要は增々多くなるものと見なければならない、其處で當町としては『都市計畫と電氣事業の關係』に考慮を及ぼす必要がある、調査に當るにつれ之をも念頭に置き度いのである、今迄の都市計畫の中には、電氣のことなどはあまり、問題とされて居なかつた様に見受けられる、之は電氣事業が全然民間の營利業者の手に一任せられて來たから、自然こうなつて來たのであらうと思はれるが、今日から見れば確に、片手落ちの感がある、今後は之の錯誤なからしむる様電氣を公營として、都市計畫を立てなければなるまいと思ふ、何處から見ても、町營とせざるべからざるものは『電氣事業』である。

炭礦界の衰微と都市計畫といふと、一寸矛盾した様な感があらうが、之の事については、何れ日を改めて書いては見る積りである。

擬昭和職人歌（六）

小鹿角夫

○がそりん・がある
はしきやし面あからめて言どふに客あることも忘れ果てけむ

○僧侶
末の世や四方結界に鳴る鐘も淨心喜捨の心さはすいまの世にマナの降ることなきかなし太皷を打ちて空に願はむ

○鐘つき
うらゝかに晝のうまゐをせむものをなどサイレンの鳴り出づるなる

埋草

……吃る

『カカカカ……』
『どちら？』
『カカカカ……』
『濟まないが中野驛往復を先きに呉れ給へ』
『カカカカ……』
『前の、方一寸退いて下さいな。姜上野を一枚』

そこで先刻から、吃つてゐた藝術家らしい風來の人はひとり憤然として歸つて了ふ。これは鎌倉へ出かけやうとした帝展洋畫家高間惣七氏。場所は巣鴨驛の出札口——。

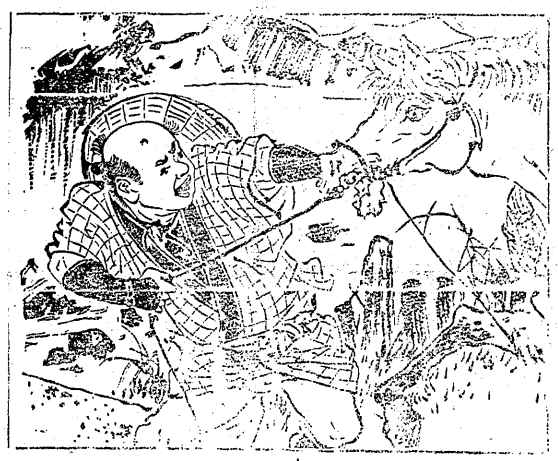
元祿名妓傳

講談

小邑井小巴演
（宮野恒彦畫）

五十七席

川崎の宿へ入つて茶屋旅籠の小向井で晝飯となる、崎井五左衛門は大酒家と見えて、一本と云つて飲み始めたが三本五本となつた、容易に立たうと致しませぬ彼是して居るうちに八ツ半七ツさがりとなる、小西屋六左衛門は大金を所持して居るから、氣が氣でない番頭の鐵之助も同じ心『鐵『旦那様何とか申し上げて、最う切上げてはどうでございますね』六『サア俺も然う思つてゐるが、相手は武士だ、失禮になつては濟まぬと思ふから』鐵『ケレドモ此處へ來てから最う二時にもなります、後から來た連中は、サツサと切上て行くのに、私達ばかりのんきな顔をして居られません、お武家様だつて大概た察しが付きそうなものですのにねえ、アレ御覽なさい馬子は下寢入りグツスリ晝寢をして、あんな大きなアクビをして居りますよ』と此方の間ではヒソ〳〵話し彼方では五左衛門が頻りに酒を飲んで居たが五『是々兵助何時に相成るな』伴の兵助が兵『八ツは最前打ちました』五『あツ然うか小西屋兵同寺の山僧兵を率ひて園城寺を攻め神聖の戒壇忽ち修羅の巷と化す、以來六七十年間兩寺の爭闘常に止む事なし（永保元）』六『へ、ェ』五『思はずも過ごした、八ツはとろ馬子さんが先立ちでなけれぬ』六『へ、ェ』五『尤も至極』鐵『サア〳〵出發致そうの日に無理な歩き方をする！』六『何分共た願申しまと、非常に疲れるものでございます、夫故旅馴れた人は初日には足馴らしで、三里か五里で泊つて終ふ、翌日から七八里、八九里とやまして……』五『尤も至極であるサア出掛けよう』と漸く腰を立てる』鐵『サあ、外のものは有並に急ぐ旅馴れば、外のものは有並に急ぐないからなア』馬『ハア好うご七、竹藏、九八などは、神ざいます急ぎますべェ』馬奈川臺小づくえを横に見て子も是から急ぎ始めた、只日暮れをトボ〳〵行く頃に江戸からは半以上來て居る今のわ方は道中に餘り御輕是から程ケ谷へは三里半だはヘト〳〵になつて終つた緩々歩いても二時は掛らな驗が……イヤ汽車汽船自動車などで旅行なさる御經驗いマア一時半だらうな、少ところが五左衛門酒が强い代り足も達者なのか、少し急げば日のうちには這入は充分たありなさるでせうも疲勞の容子がない五『六が、テクルと云ふ御經驗はし、テクルと云ふ御經驗は左衛門如何致した、町人なないでございませう、旅はどはイヤハヤ役に立たんなしろ、拙者が付いて居れば！』六『恐れ入りました、初日が、かんじんでございま豆を踏み出して難義致しま大丈夫、武士が采領して居ます三日四日と馴れて來る て賊に遭ふ憂ひはない、イ す』五『然うか』と言つてヤ併しソロ〳〵出發致そう



ア〳〵に立ちだ、馬子殿賴むぞ』馬『然うだねえ、是りやアチト手間が取り過ぎた、急がないことには神奈川あたりで暮れますぜ』鐵『あゝ急いで呉んな、何しんと休んで居て夕方に無理をする休む丁場でも休まな愈々程ケ谷の宿外れまで來た、ところが先に行つた馬がヒーン、ヒーンと前足を突ツ張つて、何うしても程ケ谷宿へ這入らない、今宵この宿場に異變が起るのを前知したのか、馬子が一生懸命になり馬『畜生ッ・どうしやがつたんだ、一日中引ッ張り廻したから宿へ這入れば湯を使つてやり、御馳走をしてやる積りだ、コン畜生ッ行けッ』尻を叩いても手綱を引つ張つても容易に動きませぬ。

△名工左甚五郎歿す（寛永一一）京都府を置く（明治元）

一日一禪

○
落花只爲隨流去
便有尋芳拾翠人

△靖國神社大祭（此日より三日又は四日間）△日本銀行開業（明治一六）△樞密院新設（明治二一）△延暦寺の擧

△○、四〇A 全國ニュース 河北新報社…ニュース 氣象通報 告知事項 ラジオ體操

△一、〇〇 一、五〇A 經濟市況

△二、〇〇 二、三〇A 家庭講座（三味線のお稽古）『第十三講』杵家彌七 △二、三〇A 經濟市況(二)

△三、四〇 氣象通報 △三、五〇 經濟市況

△四、〇〇A 全國ニュース 河北新報社…ニュース

△五、三〇A 經濟市況 △五、四五 今晩の番組豫告

△六、〇〇 六、三〇A（子供の時間）お話（清澄山の涙石）磯村野風

△六、三〇 七、〇〇A 英語講座（中等科）久野朔郎

△七、〇〇A 全國ニュース（官廳ニュースを含む）河北新報社…ニュース 氣象通報 告知事項 番組豫告

△七、二五 八、〇〇 ローカル 趣味講座（伊藤七十郎の忠節）齊藤莊次郎

△八、〇〇 八、五〇A 浪花節（生ける悲哀）東家樂燕

△八、五〇 九、一〇 ローカル 長唄（君の庭）杉村孝子

△九、一〇 九、三八 ローカル 漫談（光頭大會）立花實

△九、四〇A 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告 告知事項

△一〇、三〇 一一、〇〇 ローカル 副業講座（養育雛の方針と實際に就て！）『二』渡邊萬吉

△一一、四〇A 經濟市況

△正午 時報

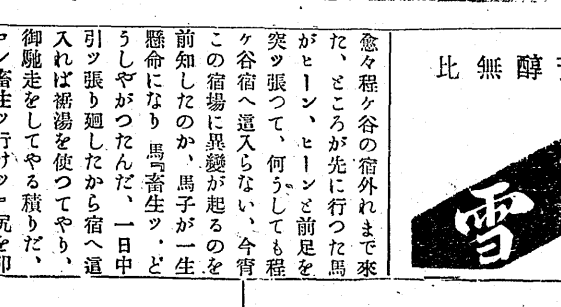
△後〇、〇五 〇、四〇A 常磐津（常磐の松島）

△九、〇〇A 氣象通報 △九、〇五 經濟市況

△九、一〇 ローカル 料理

ラジオ
…十八日〔火曜〕…
仙臺 JOHK

△前六、三〇 七、〇〇B ラジオ體操



ヨウ
モーダン！
斷然三一年型だナ
ドコの新調だい
コレハレイの
正札堂さ

内科　外科　一般
花柳病科
入院隨意
自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四三六番）
安齊外科醫院
看護婦募集

比無醇芳
白馬の雪
松本德一吟釀
平電話二八五

傳染病患者ノ出ル家ハ免許狀授與セラル
敎員免許狀
平佐藤ミヨ
平正木ヒサ子
同植田柴キヨ
同傳植田佐藤ハツヨ
皆傳植田佐藤ハツヨ
同平渡邊ツナ
中傳植田二階堂ヨシノ
同傳平廣田マサノ
同平滿山リコ
同平吉野シゲコ
初鹿島佐藤リン
同植田木村サト
同植田馬上ミト
同植田古川モト
同植田櫻田サト

池龍生派坊
免許狀授與
今般石城郡平町六丁目華道敎授正木旭松門弟常ニ華道熱心ニシテ日夜勉勵成績優良ナルヲ以テ茲ニ昭和六年四月十九日東京家元ニ於テ春季立華生花大會合格ノ上左ノ人名ハ免許狀授與セラル

平町田町
高久病院
（電話五一三番）
醫學士 高久忠清
新潟醫學士 羽菊雄
赤佐竹
藥劑士
內科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

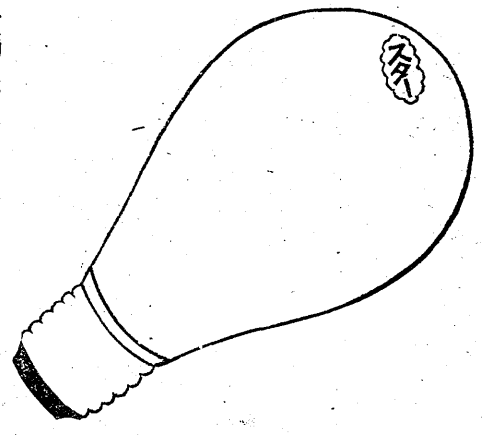
傘と日傘
清楚なパラソルと
日本趣味の豊かな日傘
完全防水マント
ヤルツ
○四電・四平

蜂ブドー酒
保健のエッキス
蜂の一杯に滿つ
大阪 近藤利兵衛商店
5—7

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

夜診療
胃腸　極毒
內科　十二指腸病
淋病
皮膚病
婦人病
專門部　內科
專門部　外科
松村醫院
胃腸病　性病科
（平南町電話一〇七番）

十燭以下十二錢…五十燭マデ十八錢
御電話ガアレバ屆ケマス。
平三
大谷時計病院
眼鏡科
電話十九番



ガス入電球ノ値下
次又値下

月曜論壇

町理事者に望む

その精神方面なると物質方面なるとを問はず物事が或る程度迄豊満の狀態に達すると必ずやそこに或る種の弛緩と倦怠とが生じて來る。卽ち質少く量亦乏しい時に於てその所謂使用價値をして最高限度に擴張せしめんとする人類の本能的慾望はあらゆる方面に而も何等の例外なく結果さるる處であつてその反對現象たる所謂報酬遞減の理法は旋て人物經濟（勤勞）の上にも當然應用さるべきであらう

×

人件費の整理減額が爾後の事務進行に對して直に比例級數的の影響となつて反映せぬであらう事は吾人の大体に於て推測し得る處である、この意味に於て過般斷行された平町の吏員整理は財政行き詰りの當面打開上寔に肯綮に當る措置であつて之が爲め町民の負擔が幾分なりとも輕減さるるか然らずとするも之を他に善用せらるる事は刻下の町民にとつて誠に有り難い事で些々たる私情に拘泥せず所謂泣て馬稷を斬つた町理事者の英斷を衷心多とするものである。

×

由來人事行政の失敗は左顧右盻餘りに外部の牽制容喙に應病にして所謂首鼠兩端の態度に陷り敢然として其の所信を斷行し得なかつた場合に於て多く行はるるものである。而も人事の任免黜陟が町議或は衝除の有力者に對する緩衝的政略を加味して行はるる事の斷然不可なる以上其の所信を敢行して而して生ずる毀譽褒貶に至つては敢て之を考慮の裡に置くの必要がない。

×

伏聞する處によれば伏見町長の手許には先年來一人旋に婿八人以上の履歴書が山積してゐる由であるが吏員の補充は終始町政の機構とその運用を基準とし決して人の爲に所謂授産的に之を行ふが如き事なく現在吏員の精力を消耗せざる限りに於て數の最少限を以てせらるべん事を多數町民と共に望んで已まざるものである。

新綠の天地に動く地方政界

木村代議士 議會報告演說會

總務級の特派員が來援し

郡内各所で開催

石城政友部會では昨二十六日午後一時から平町の同倶樂部内に於て幹部會を開催會長木村代議士、安島元代議士、井上部會幹事長、山決定したが平其他市街地で崎縣議其他幹部多數出席協議の上來月一日午後一時から大浦村を皮切りに四倉、草野、平、好間、内郷、小名浜、泉、植田勿來等に於て木村代議士の議會報告演說會を開催する事に事思想鼓吹の爲來月二日午後六時半から聚樂館に於て

石城民政部會 野崎縣議除名決議

内訌竟に表面化す

石城郡民政部會では二十六日正午からの比佐代議士陸軍參與官就任祝賀會に先立ち午前十時から平町南町部會樓上に急遽總會を開き役員の改選をなし終つて縣議野崎滿藏氏の除名を決議したがこれによつて部會は完全に分裂した事になるので秋の縣議戰を控えて兩派は一層政爭以上の爭ひを續け

比佐參與官任官祝賀

昨日聚樂館で

比佐代議士の陸軍參與官任官祝賀會は石城民政支部在郷軍人分會石城聯合分會及縣立磐城中學校同窓會等が主催となり二十六日午後零時半から平町聚樂館に於て開催したが比佐參與官は來郷の故金より郡山市公會堂に於て開

簡保健康診斷所 平町に設立内定

續出する解約と失効之に依て緩和されん

平郵便局管内の簡易保險契約數は今二十七日現在で一萬七千八百餘口であるが時三月中は申込二百八十二口に對し解約失効がその四割強を占むる百十五を算し誠に惜むべき現象をゝしてゐるが平を有望な候補地とし調査中の健康診斷所は同局には未だ正式に何等通達はないが其筋では既に平町地内に設立する事に決定した模樣で時期、場所等に就ては未だ確定を見ないが遲

本郡代表片寄選手入賞

郡山で開かれた縣青年雄辯大會

縣下聯合青年團雄辯大會は既報の如く廿五日午後七時節柄中途解約失効が著しく多大の感動を與へ午後九時から清新潑溂の初夏、袷を之も千鳥足の上機嫌で家に曲げて味覺道樂を娯しまねばならぬ初鰹の新綠の皐月は目前に迫りました。

×、

そこで過ぎしお花見の悲喜劇を決算して見ます。

——何と云つても氣の毒だつたのは開放されたる一日を心ゆくばかり松ヶ岡の花見酒に親しんで蹌踉蹣跚家路に就いた古物商の年寄りたちの牡丹櫻が處々僅かに春が崖から轉落して商賣とはの名殘りを止めてゐるばかりです。松ヶ岡公園も勿論同じく淺黄幕がおりましたもう